

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0894400027		
法人名	社会福祉法人 河内厚生会		
事業所名	グループホームあおば	ユニット名(式番館)	
所在地	茨城県 北相馬郡 利根町 大平 260-2		
自己評価作成日	令和 5 年 8 月 21 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和5年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>業務改善の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務を見直し、職員一人で行う作業量の明確化を実施しました。 ・以前は各シフトで30分～1時間の残業がありましたが、突発なこと以外は残業をゼロに改善しました。 ・日勤フリーというシフトを創設し、両ユニットを見ることが出来る職員を配置し、外出などに対応できる様になりました。 <p>利用者様へ関わる取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症対策緩和で面会方法を窓越しからLINE面会、ベランダでの面会と都度検討し利用者、家族の気持ちに寄り添える様対応しています。(看取り介護で終末期の方は居室で泊まる事も可能) ・個別に外出、外食等の支援が出来る体制を構築しました。 <p>その他として職員は上期、下期で共同目標を行い、環境整備、職員のでベルアップに取り組んでいます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を会議にて再確認する。理念を実現する為に職員の知識、技術向上に努め、特養と合同で勉強会、研修を企画し実施している。又、共同目標を作り皆で取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症以前はボランティアによるクラブ活動でいろいろな方と交流の機会を多く持って頂けるように取り組んでいたが、現在はコロナウイルス対策継続の為行えていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和5年度より運営推進会議を再開している。地区の代表の方や、民生委員の方にホームの状況などを伝えて意見交換を行っている。管理者がキャラバンメイトとして活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を再開して表協を報告している。又、お互いに協力してほしい事等も話し合い非常時の協力を仰いでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場福祉課の職員と運営推進会議や認知症サポーター養成講座等の打ち合わせ、介護保険の手続き等で連携を取っている。その際に入居状況、利根町の情勢など情報交換をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議の際に話し合う機会をもうけているが、以前離設の事故が続き、ご家族からも玄関の施錠を望む声があり、現在は施錠を行っている。ただし、希望時、晴天時、気温を確認しながら敷地内外の散歩を職員付き添いの元行い、行動の制限が少なくなるよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底	職員入職時と令和5年上期の共同目標の確		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認事項で虐待の種類について再確認している。虐待を発見した時には通報の義務がある事を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、生活保護の利用者が1名いて成年後見制度を利用している。福祉課の担当職員や県南県民センターの担当者と必要時に話している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、契約書を十分に説明し理解を得ている。また、契約後も不明な点があれば確認くださいと伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、電話、lineにて意見、要望を聞き反映できる様、検討実施している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課の面談を半年に1回行い意見がないか確認している。その旨を書面にて本部へ提出している。又、普段から何か意見があれば聞いてすぐに対応可能なら行ってもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	令和4年度に各シフト残業をしていたが、残業をしないように業務を見直した。又、共同目標として職場の5Sに取り組み環境を整備した。本部に報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育体制を整備し、チェック表を用いて進捗状況を見る化し、お互いに納得がいくように行っている。又、現在、全職員へチェック表を行い、知識、技術の再確認を実施している。 <small>研修委員が毎日研修を企画、実施している。</small>		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染症対策で職員同士の他法人との交流はほぼない状況。管理者、施設長レベルでの同法人の一部は交流あり。今年度は管理者会議が開かれていないので本部との交流はほぼない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報を職員間で共有し入居後スムーズにケアが出来るよう、また本人が安心して過ごせるようコミュニケーションをとり支援している。入居時には、本人が安心できる環境を考え提供するよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族の困りごとや、ご希望などを伺い、お互いに協力し支援していく事で同意を得て良い関係作りに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前調査で本人、家族の意向、上体を確認し、必要な支援を考え提案し、同意を得て対応している。また、訪問歯科、訪問医にも相談し支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する上で、出来る事をお願いし、終了後には「助かりました、ありがとうございます」と感謝を述べて「自助、互助」を意識して行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に出来る事を一緒に考えてもらい、取り組んでいる。又、看取り期に於いても家族に関わってもらい「十分やった」と思える様に共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で関係が途切れているが、面会の緩和で少しずつ回復できる様に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクでユニット間の交流を持てるように配慮している。又、利用者同士が話せるように職員が話題を振るなど配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院した際に相談にのり、戻ってこれない状態なら、受け入れ先など情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と家族の意向が違う事が度々あるが、本人の意向を家族へ代弁している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査、契約時に聞き取りを行っている。又、支援の過程で昔の職業や生活習慣を効く場面もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスにて過ごし方、心身状態を確認している。有する能力は職員の声掛けや知識、技術に左右される所もあるので、その都度指導をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスにて個別にて話し合っている。又、家族面会時や電話等で状況を伝え方針の確認、ケアの方法を反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を紙ベースからデータベースへ変更している。過去の記録を見やすくする事で情報共有しやすくしている。カンファレンスも用紙を改善し、前月の評価、その後の様子を分かるようにして情報を整理しPDCAサイクルに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師、医師、特養の相談員、介護支援専門員に相談しながらフォーマルサービスだけでなくインフォーマルサービスも検討するように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でボランティア等の活用が出来ていない状況。少しずつ買い物や外食にいける様に個別に対応する事を検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	異常があった場合に看護師、訪問医の診察を定期、必要時に依頼し、その結果を家族へ伝えている。又、家族から医師から話を聞きたいと希望があれば調整してICを行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1/w看護師が来た際に管理者、介護士から申し送りをして見てもらっている。その際に分からない事、病状の見通しなど相談している。必要があれば医師に連絡、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は介護サマリーを作成し情報提供している。必要時にはMSWと連絡を取り調整している。退院時には病棟看護師と調整することが多い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの説明を行っており、その際に本人の意志や家族の意向を大まかに確認している。看取り期になりそうな時は状態を伝えICの希望があれば調整している。施設で出来る事、病院で行う事を説明し決めてもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度より夜勤業務を始めて行う前に管理者、看護師から説明を受ける様体制を整えている。事故、急変時の対応マニュアルを各ユニットへ掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自然災害のBCPを作成中。同敷地内の特養と協同して行っている。避難訓練は図上訓練と夜間想定避難訓練を実施している。運営推進会議にて避難誘導のお願いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに関して丁寧語を使うよう指導している。又、「いっぱいでた」等の事を言わない様に指導確認をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団や1対1の場面に合わせた思いを聞き取るようにしている。又、聞き取る際にクローズド、オープンクエスチョンを意識して行う様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など定時で声を掛けろが、その時の気分、様態に応じて時間をずらす、家族の協力を得て代替の物を用意する等して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着たい洋服、髪型や色を提供できるようにしている。又、起床、離床時には髪の毛をブラッシングし衣類を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	歯科医師、歯科衛生士に口腔内の状態をみてもらい個々にあった食事形態を提供している。又、食べられないものに関しては代替の食品を準備し提供している。食後のお膳拭きをお願いし行ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、水分量を把握し、水分が少ない時は飲みたいものを準備し提供して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、本人の力で不十分な所は介助している。又、訪問歯科時に歯科医師、歯科衛生士の相談し口腔ケアの方法を相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方に対しては声掛けで排泄の確認をしている。介助が必要な人は排泄チェック表にて排泄パターンを確認し、失禁が無いように声掛け、誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を確認し、下剤が必要な時は看護師、医師と相談して対応している。又、水分を多めに促す、体操にて腹部を動かす、下腹部のマッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、時間を設定はしているが、その日の気分によって変更している。又、季節にあった入浴(ゆず湯、菖蒲湯)を提供している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣、状態に合わせて休息している。又、起床、離床時はベッドメイクを行い、しわが無いように配慮している。又、居室の配置、模様替えなどを本人と話し合っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬について情報をまとめた物を用意して職員が閲覧できるようにしている。又、内服薬が変わった時は様子観察を行い、記録に残して看護師、医師に報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から趣味ややってきた事を把握し、行える様見守り介助している。 毎月行事を行い利用者が楽しめる事を考えたゲーム、食べ物を提供している。誕生日会では好きなケーキを選んでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対応で行えていない。 今後、個別支援として行きたいところ、食べたいものなどを聞き取りし、支援していく事を検討中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で小遣いを預かり、希望時に買い物をしている。(利用者間の金銭トラブルを防ぐため) 家族の了承を得て管理している利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りがある利用者には、住所を調べる等をして出すまでを支援している。電話についても希望時には電話をして対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を行い、動線を考慮した配置を行っている。又、混乱をしないような表示を意識して行っている。 季節を感じてもらえる様、掲示物を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コミュニケーションが取れる座席の配慮を行い、一人で休みたい時はソファで休める様配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の配置を本人と話し合い決めてなじみのある物を置き、安心できるように配慮している。 又、タンスに何があるか表示して混乱しない様にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個人をアセスメントして分かる言葉を探し、表示する事で自分で出来るように配慮している。		